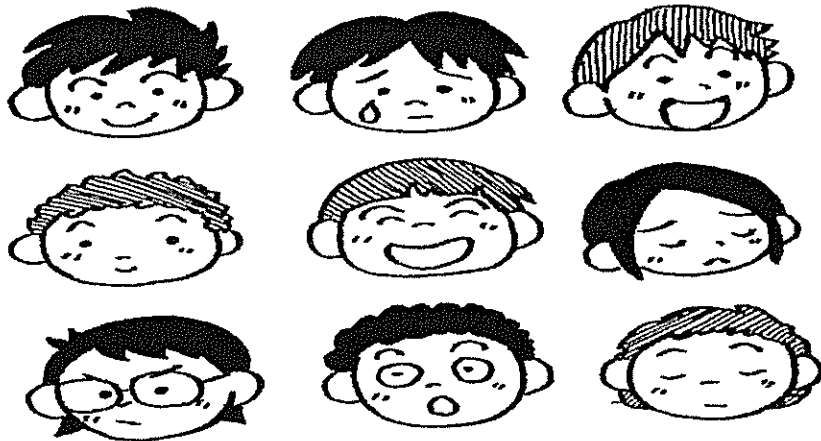


芽ばえ

第49号



豊中市幼保こ小連絡協議会

幼保こ小連絡会のまとめ

＝ 17 小学校区における取り組み＝

小学校区	豊刀池	桜井谷	明輪	池路野	畑丘	東豊泉	南新西	東北	
実施方法	集合実施	集合実施	集合実施	集合実施	集合実施	集合実施	オンライン	集合実施	
開催日時	1月23日(月) 15:00~16:15	1月30日(月) 15:00~16:15	2月10日(金) 15:00~16:15	1月23日(月) 15:00~16:15	1月23日(月) 15:00~16:15	1月23日(月) 15:00~16:15	1月23日(月) 15:45~16:30	1月17日(火) 15:00~16:15	
メインテーマ	『『連携』から『接続』へ～遊びの中の『学び』を捉え、小学校へつないでいく』								
サブテーマ	生活習慣を身につけ、体力づくりを育てていくために～子ども同士を繋げる～								
会場	刀根山小学校	桜井谷小学校 多目的室	箕輪小学校 多目的室	大池小学校 多目的室	北緑丘小学校 多目的室	東豊台小学校	オンライン	北丘小学校	
司会	刀根山小学校	桜井谷小学校	箕輪小学校	大池小学校	北緑丘小学校	東豊台小学校	新田小学校	北丘小学校	
記録	刀根山小学校	登中みどり幼稚園	箕輪小学校	少路小学校	箕面自由学園幼稚園	東豊台小学校	西丘小学校	北丘小学校	
発表校	神童幼稚園								
認定こども園	ぶっこう幼稚園 神童幼稚園 登池文化幼稚園 アトリオこねやまこども園 とねやまこども園 登池こども園	神童幼稚園 登中みどり幼稚園 とよなか文化幼稚園 のぼたけこども園 桜井谷こども園	登中愛光幼稚園 登池文化幼稚園 ぶっこう幼稚園 こもれびのりこども園 ともだちこども園	神童幼稚園 あけぼのぼんぼこども園 とよなか文化幼稚園 のぼたけこども園 本町こども園	登中みどり幼稚園 のぼたけ幼稚園 のぼたけこども園 北緑丘こども園	白鳩チルドレンセンター南丘 ゆたかこども園 東豊中こども園	せんにじり幼稚園 ひびりにじいる保育園 白鳩チルドレンセンター南丘 追手門学院幼稚園 アトリオなみおみこども園 あけぼのドロップス しんぶんこども園 西丘こども園 東丘こども園	せんにじり幼稚園 アソカ幼稚園 あいつび幼稚園	せんにじり幼稚園 ひびりにじいる保育園 北丘聖愛園 しんぶんこども園 東丘こども園
	幼稚園	緑ヶ丘幼稚園 春日荘聖マリア幼稚園 箕面自由学園幼稚園	超光寺幼稚園	梅宮山幼稚園 緑ヶ丘幼稚園 東豊中幼稚園	春日荘聖マリア幼稚園 緑ヶ丘幼稚園 箕面自由学園幼稚園	東豊中幼稚園	みくま幼稚園 アソカ幼稚園 東豊中幼稚園	アソカ幼稚園 アソカ幼稚園	アソカ幼稚園
保育所(園) 事業所内保育事業 小規模保育事業施設	いずみ保育園 HOPPA武池駅前	あけぼの風の森保育園 登中みどりこども園 あけぼのひだまり保育園 羽鷹池ひだまり保育園 のどか保育園	おひさ主岡町保育園 カリーナ保育園おかもち	聖ミカエル保育園 たまよい保育園 とよなか文化ナースリー HOPPA少路駅前 とよなか文化さくらナースリー 上野ひだまり保育園	のぼたけファミリー保育園	よつばほいきくえん 東豊ひだまり保育園 東豊中ひだまり保育園 トリシャークキッズ ひがしよなこ保育園	アスク上新田保育園 あいつび保育園 よつばほいきくえん ゆいゆい保育園	アソカ保育園	ちびっこ保育園スカイライフ
	交流の実践事例	未定	克明小学校	北池小学校	北緑丘小学校	東豊中幼稚園	西丘小学校	せんにじり幼稚園	

蛭池・刀根山小学校区

【参加人数】 小学校(6)名 こども園(6)名 幼稚園(4)名 保育所(園)(2)名 児童発達支援センター()名
小規模保育事業施設()名 事業所内保育事業施設()名

今年度の各園や学校の取り組みや様子について

神童幼稚園 身辺整理・大なわとび

刀根山こころこども園 こま回し・なわとび(なわとび表使用)・人のはなしを聞く・持ち物管理・年下との関わり

蛭池小学校 地域の方が来てくれかるた作り・来年度には1年生がくるんだよの声掛け(上になる意識を作るように)・11月150周年式典群読・園をこえての繋がりが増えた

ぶっこう幼稚園 9月運動会でマーチングをした(困ったら困ったと言うということの理解)・大なわ(勝ち負けの経験)・音楽発表会(運動会の経験により自主的・自発的にできるようになってきた)・かるた大会(年少から続いている。年長は読み札を取る)・椅子に座って集中して取り組むということもしている

アトリオとねやまこども園 かるた作り(文章を書いたり絵を描いたりする)・オセロ・なわとび(カード作る・スタンプ押ししてほしい・目標に向かって取り組む力)・話し合い(口調がきついことがあるため、どうしたら解決できるか日々大人も交えて話し合っている)・小学校への興味あり(算数ってこんな教科だよ・友達ってどうやったらできるのかな?不安あり)

いずみ保育園 じぶんで考えることを目標に何事にも取り組んできた(作品どうやって作りたいか?それをどうやって作るか・譲歩の場面)来月発表会劇に向けて練習中(ストーリー作りから子どもたちとしている)・切り替え苦手(メリハリ)・不安症多い(小学校に対しても不安をもっている子が増えてきている)

蛭池こども園 地獄のそうべえ(大道具も子どもたちが作る・担任は音響だけ・子どもたちでできるように)友達と協力することに達成感・自信→鉄棒に挑戦しよう・逆上がりがんばろうという姿あり・小学校に向けて(期待・不安)鉛筆をじぶんで管理・はなしを聞く練習をしている

とねやまこども園 気持ちの表現 取り組む(語彙の少なさ・ごめんねいいよで終わり・友達の気持ちに気づく・外国籍配慮ひつような子などの相手の気持ちを考えよう→気持ちカード友達の思いを聞く・ことばでの伝え合い・思考力の芽生え・生活発表会に向けて(合奏・歌力を合わせて・話し合い→友だちの考えを聞く・みんなが納得できるようにどうしたらいい?がんばりを認め合うことで)

刀根山小学校 集団としての成長・水泳運動会参観コロナ禍ではあるができた・研究授業と運動会の練習を並行して行う→成長・主体的に取り組めるように・作戦を練るなどの活動ができた・人権学習(ライオン)ありのままにしていることの大切さや友だちの気持ちを考えることの大切さ

○主体的に取り組むことができるように、行事や普段の生活の中で工夫をしている園が多かった。また、どの園も小学校入学に向けて話を聞く練習や物の管理の練習などを行っている。期待する気持ちがある一方、不安な気持ち募らせている子どもも増えてきたようである。

全体交流や質問

蛍池小学校より 入学時からひらがなを知っている子が多い。園や家庭が積極的にしているのですか？

・文字ワークをわたしているが、真似してかいてみよう程度の取り組み。保護者が不安に思っている方が多く、積極的にされている方が多い。かるたやお手紙ごっこで自然に覚える子が多いが、鏡文字や書き順ひどい子が目立つ。

・かるたなどの園の取り組みによって文字への意欲がとても感じられる。

刀根山小学校より 子ども同士の関わりへの取り組みはありますか？

・縦割り活動をしている（異年齢の役割をそれぞれが理解した・気持ちを伝え合う等）

刀根山小学校より 複数の園が小学校に来てくれた。（交流）

・園の子どもたち 鉄棒がたくさんあることや滑り台が高いことに驚いていた。また小学生が園の子どもたちに学校はこういうところだと説明をしてくれ、良い経験になった。

・小学校の子どもたち 1年生は下の学年の子がきたことによって、良いところを見せようと頑張っていた。

・コロナ前と比較し、不安を抱えている子は多い？交流なしのまま入学するのは不安が多いかもしれない。→今後、交流は増やしていく。

刀根山小学校より 子どもたち同士の接触はどんな様子か。

・関わりの深さなどが変わってくるので、できる経験はさせている。（手繋ぎなど）触れることの大切さやあたたかさ重さを知る機会となっている。

蛭池・刀根山小学校区

〈参加校園所〉 こども園 4園 幼稚園 8園 保育園 3園 市外園 2園 小学校1校

1、 活 動

体験入学 ～なかよし会～

2、 日 時

2月22日（水） 9時30分～10時20分

3、 場 所

刀根山小学校 1年生各教室

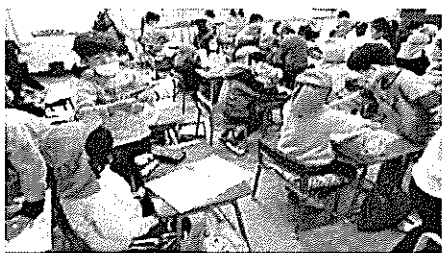
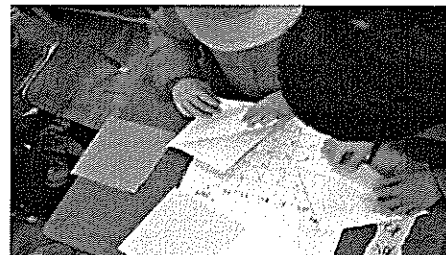
4、 ね ら い

・1年生が、司会をしたり説明したりして新1年生の子どもたちが小学校入学を楽しみにできるような学校見学会にする。

5、 実施内容

- ・自己紹介
- ・学校紹介（大型テレビで小学校の教室を紹介する）
- ・カレンダーづくり（チューリップを折り紙で折る、貼る、絵を描く）
- ・メダルと歌のプレゼント

6、 体験入学の写真



7、 子どもの様子・感想

「新しい1年生に喜んでもらえるように」という思いを込めて、計画し準備を進めてきた。当日は多数の各園所から100名を超える未就学児を迎えることができた。大型テレビで校内の教室紹介を行ったり一緒に折り紙やカレンダーづくりをしたりして積極的な関わりが見られた。当日は緊張した面持ちの1年生だったが立派な先輩として優しく未就学児に接する姿がたくさん見られた。「ともだちになれたよ。」「かわかったよ。」「げんきで小学校にきてほしいな。」など、交流を終えた子どもたちは自分がお兄さんお姉さんとして関わることもできた喜びを感じることができた。この取り組みを通して、自分たちでできるようになったことや、役割が増えたことに気づき、これからも新しい1年生と関わっていこうとする気持ちを大切にしていきたい。コロナ渦で3年ぶりの開催だったが、異年齢交流の大切さを実感する会となった。

桜井谷・桜井谷東・箕面自由学園小学校区

【参加人数】桜井谷小学校(5)名 桜井谷東小学校(5) 箕面自由学園小学校(1)名 こども園(4)名
幼稚園(4)名 保育所(園)(4)名 児童発達支援センター()名 小規模保育事業施設()名 事業所内保
育事業施設()名

1、 基調とした発表

○神童幼稚園

年間のテーマ「自己肯定感を高める保育」

大勢の人の前で発表する機会を作り、自信に繋げていくことができるようにする。

アート週間・・・クラスの流行に合わせて、話し合いテーマを決める。相手の話にも耳を傾け、それぞれ考えていることをどんな方法で表現できるのかこれまでの経験を活かしながら試行錯誤し活動を展開させる姿が見られた。

○桜井谷東小学校

テーマ「ともだちとつながろう！～自分や友だちの気持ちを大切に～」

ひらがな学習・・・遊びを通して子どもたちを繋げ、ともに学ぶ集団作りをする教材や「遊び」を通して子どもたちがお互いを知り、子どもたち同士で「合理的配慮」をする関係性が授業のベースになる。

好きなものでいっぱい・・・人権参観を「男女共生教育」をテーマに取り組んだ。
好きなものでいっぱい(色・性別など無意識のうちに決めつけず男女に関係なく自分の好きなものを存分に楽しめるようにすることがねらい)

2、 話し合った内容

・幼稚園での活動と小学校での活動の違い・・・幼稚園では主体的に自分のペースで参加することができるが、小学校では一人ひとり完成させないといけない課題があるので「やりたくないけどやらなければいけない」というギャップが生まれる(このギャップのうめ方・幼稚園ではやりたくない時にどうしているのか)

→幼稚園ではやりたくない活動については無理強いすることなく次の活動から参加するようにしたり、個別にクールダウンしてから活動に参加したりと無理のないように配慮しながら進めている。

・朝の登校時間について・・・朝起きれない(長期休みやひどい子どもは土日で生活のリズムが乱れてしまう)・母子分離ができない(保護者もなかなか帰らず寄り添う時間が長い)

→幼稚園でも決められている登園時間に間に合わず遅い子どもだと10時前に登園する子どももいる。進学を意識できるよう家庭にも伝えて、できるだけ決められた時間、毎日同じ時間に登園できるように声かけをしている。母子分離についてはひどく離れられない子どもはいないができるだけそのようなことがあった場合には保育者に預けて任せてもらい、保護者には早めに帰っていただくようお願いしている。

・自分の思いを言葉で表現するのが難しい・・・できないことや分からないことを特に言葉で表すことが難しい。(先生も聞きやすいような雰囲気をつくるようにすること・子ども同士での話し合いの時間を増やす)

→幼稚園では毎日活動の後に振り返りの話し合いを行い、楽しかったことや嬉しかったことだけでなく、その日困ったこと、分からなかったことなどもクラスの中で共有している。お友だちの話を聞いて「自分以外にもこのことで困っているお友だちがいるんだ」と気づくことができたり、保育者に受け止めてもらったり共感してもらうことで困っているのは1人だけではないことに気づけるように日々振り返りをしている。また家から作ってきたものや特技(体の柔らかさ・ダンス・こままわしなど)をお友だちに紹介したり気づいたり、調べたことを自ら主体的に発表したり、認めてもらう経験を通して自信に繋げていけるようにしている。

分からないことや困ったことがあってもいいこと、失敗しても何度も挑戦していこうということ、保育者やお友だちにも分からないことがあれば言葉で聞いていいことを繰り返し伝えていくことで失敗を恐れずに自分から聞きにくることができるようになった子どもも多い。

3、 今後の課題・まとめ

- ・表情を見ながら対話する時間を増やす
- ・体力づくりと体幹を鍛えること
- ・外国にルーツがある子ども・性的マイノリティーの子ども・支援学級に在籍している子どもを担当の先生だけで対応するのではなく、子どもたち同士の繋がり・集団作りをしていくことが必要である。

桜井谷・桜井谷東・箕面自由学園小学校校区

<参加校園所>桜井谷小学校 99人

ぶっこう幼稚園：5人 春日荘聖マリア幼稚園：1人 とよなか文化幼稚園：2人

のぼたけこども園：2人 のぼたけ保育園：4人 あけぼのぼんぼこども園：1人

緑ヶ丘幼稚園：2人 神童幼稚園：4人 豊中みどり幼稚園：61人 箕面自由学園幼稚園：4人

アトリオとねやまこども園：2人

羽鷹池ひだまり保育園：16人 刀根山こころこども園：2人

1. 活動内容

- ・小学校生活の紹介
(学習内容などの呼びかけ、歌や演奏など)
- ・1年生よりプレゼント
- ・インタビュー



2. 日時 2023年2月22日(水) 10:30~11:30

3. 場所 桜井谷小学校 体育館

4. ねらい

- ・小学校の生活や学習内容などを知ることにより、安心感を持って入学できるようにする。
- ・新1年生を迎え、学校のことを教えることにより、2年生になるという自覚を持たせる。

5. 活動の展開

- ・小学校生活の紹介
(国語・算数・生活…学習したことを呼びかけで発表。音楽…手話歌『さんぽ』、鍵盤ハーモニカ『かっこう』の演奏。体育…ボール投げ、跳び箱、短なわの実技。)
- ・1年生よりプレゼント
(1年生が1学期に育てたあさがおの種を、園児たちにプレゼントした。封筒は折り紙で作成し、ひと言メッセージを記入しておいた。代表の児童が、それぞれの園のところに行って、プレゼントが入った封筒を手渡した。)
- ・インタビュー
(1年生担任が、代表の児童に、入学時の生活などについてインタビューをした。)

6. 子どもの様子・感想

1年生の児童は、当日に向けて一生懸命準備をした。あさがおの種を入れる封筒には、思い思いに絵や言葉をかく姿が見られ、「ぜんぶ ひらがなで 書いた方が いいかな。」と尋ねる児童もいた。

当日も張り切って発表などを行い、最後に見送る際は、互いに手を振る様子が見られた。今回、直接的な交流はできなかったものの、1年生は園児たちの反応を嬉しく思っている様子だった。



克明・箕輪小学校区

・テーマに沿った交流について

「話を聞く」「主体性を持って動けるように」「自分の気持ちを出せる」「思いやりを持って」の内容で、年間どのように取り組んだのか、どのような成果が出たのかを交流をした。

以下交流内容

話を聞く・・・どの先生の話も聞けるようにする。イメージを膨らませながら聞く。話を聞いて理解し、自分で課題をつかんで次につなげることを大切にする。絵本で話を聞く環境づくり。ルールづくり。話を聞く姿勢をまずは大切にする。

自分の気持ちを出せる・・・終わりの会などで自分の気持ちを自由に話す場面を大切にする。けんかが起きてもすぐに仲裁せずに見守る。子どもたち同士で話し合う。発表会の練習を動画に撮り、話し合っ改善する。対等な関係作り。相手が嫌にならない伝え方を考える。授業や学習の中で自分らしくすごせることを大切にしたり取り組みを続ける。いのちの学習（出生について、名前の由来）。ペア学習。

思いやり・・・異年齢間の交流の中で育む。発表会に向けての物語の主人公の気持ちを考える。友だちの変化に気づき、認め合うことを大切にする。友だちを肯定的にとらえる取り組み。

主体性・・・初めてのことには自信がないので、自信が持てるように繰り返し行ったり、一日の流れを貼ったりして安心して過ごせる手立てをする。やりたいことを子どもたちで考え、アイデアを出し合う。トラブルが起こると話し合う機会にする。それぞれの得意な部分を活かして制作をすることで、良いものができたことをみんなの自信にする。発表会までの練習で何が必要か、自分たちで考えてやる力をつける。

・来年度の体験入学について

「学校見学という形でもいいので、年長さん全員が同じ体験をできるようにしてほしい」とのことだったため、来年度は小学校が体験入学の日を2日ほど提案して、その日に可能なら1年生との交流の場も設ける。

・時期は2月後半～3月ぐらいがよい。

・一年生が授業している様子が見られるように、オープンスクールの案内を幼保こ園に今後は送る予定。

・その他

・保育では、遊びを通しての学びを大切にしているが、小学校の生活の中での学びや人とのつながりの部分を大切にしているという発表を聞いて、保育との連続性が感じられてよかった。

・小さい頃の様子や名前の由来など、誕生に関わる内容を学習するにあたって、いろいろな事情がある児童がいる。そのことを考えたときにそのような内容をやるのが慎重になる。しかし、そういう子たちにこそこの学習は大事であり、「今ここにいるその命が大事」ということには変わらない。取り組む学年ごとに入る切り口を探る必要がある。伝え方の工夫（誰かが大事にしてくれているから今がある）などは必要。

克明・箕輪小学校区

〈参加校園所〉 豊中愛光幼稚園、蛸池文化幼稚園、ぶっこう幼稚園、こもれびのもり、
ともだちこども園、おひさま岡町保育園、克明小学校、箕輪小学校

1、 活動内容 教職員の交流

2、 日 時 2023年2月10日（金）

3、 場 所 箕輪小学校 多目的教室

4、 ね ら い

①「話を聴く」、②「主体性を持って動けるように」、③「自分の気持ちを出せる」、
④「思いやりをもって」の内容で、1年間どのように取り組んだのか、どのような
成果が出たのか交流した。

5、 交流の内容

- ・①「話を聴く」について、スキンシップをとる、絵本などの読み聞かせ、食育、ルール、
ハンドベルなど
- ・②「主体性を持って動けるように」について、得意なこと役割をもつ、たてわりでの遊
び、繰り返すことで自信をもつ、やりたいことを聞いて生かす、子どもたちで話し合う
など
- ・③「自分の気持ちを出せる」について、感じていることをみんなに話す、合奏、二人ペア
や4人グループでの活動、生活発表会、「いま どんな気持ち」、克明えんにちなど
- ・④「思いやりをもって」について、異年齢の子との関わり、トラブルのとき一緒に考える、
げき、「赤ちゃんのときの様子」聞き取り、グループでの活動
- ・保護者から遊んでいるだけに見える場面でも、遊びや生活の中で学んでいる保育・教育で
ある。教え込むのではなく、子どもたちの中で乳幼児からの経験とつながって、成長してい
く。
- ・外国から来られた保護者の方も増えている。顔を合わせてコミュニケーションをとること
が大切。連絡帳の文章も翻訳アプリを活用するなど、伝わる方法を試していく。

6、 その他

- ・幼保こ小交流見学会について、箕輪小2/21、克明小3/13ともに開催した。来年度2月後
半から3月前半になる予定。
- ・オープンスクールのときに、幼保こから見学・交流の希望があるので、案内を送る。

大池・少路・上野小学校区

【参加人数】小学校(9)名 こども園(5)名 幼稚園(8)名 保育所(園)(5)名

1、 基調とした発表

【あけぼのぼんぼこども園】

(1) 幼児教育に関する指針・要領改訂のポイントを踏まえる

- ・3つの資質・能力 ①個別の知識・技能(=個別知)、②思考力・判断力・表現力等の基礎(=実践知)、③学びに向かう力、人間性等(=人格知)。3つの資質・能力は「勝手に育つ」のではなく、適切な環境設定や、保護者の応答的なかかわりによって育っていく。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」(中教審)は、育つべき能力・到達目標ではなく“育ちの方向性”を示したもの。幼児教育と小学校教育の共通の基盤として主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を具体的な学びにしていく必要がある。

(2) 幼児教育に関する指針・要領改訂のポイントを踏まえた具体的な学びへ

- ・6歳を迎える節目で、園で1泊2日の宿泊保育 お誕生児キャンプ(通称「おたキャン」)の会議の実践報告。
- ・会議では、子どもたちが「あそびチーム」と「ご飯チーム」にわかれて相談し、プレゼンテーション(提案)を行う。複数の案の中から複数のものを“みんなで”決定する難しさを実感しながら、みんなで決めていくという経験の場を設けている。子どもたち同士で主張がぶつかり合う会議となったが、自分たちで導き出した多数決の方法により解決していった。
- ・今後の教育の方向性は、「学びに向かう力」が特に大切になってくると考える。座学で学び得ていくスタイルから、体験型で学び合うスタイルを大切にしていく。

2、 話し合った内容

◎「コミュニケーション能力育成について」の成果と課題(小学校区ごとに実践交流を行った後、全体共有を行った)

- ・子ども同士の話し合い活動を増やし、考えや感想を伝える場面を積極的に設けている。
- ・毎朝集会を行い、読み聞かせの感想を伝える場面を設けている。
- ・子どもたちの集団の中では、声の大きい子の意見が通ってしまうことがある。また、主張が強い子の意見が通ってしまうことが多いため、コミュニケーションの取り方や話し合い方、聞き方に配慮しながら見守り、支援している。
- ・子どもたちは自分中心で一方向的に話をすることがある。人の話にも耳を傾けられるように、子どもたちが聞き方について意識するようにしている。
- ・教員(大人)に対しては話せるが、子ども同士で話し合うことが苦手な子もいる。子ども同士で話し合う場面を増やし、その経験を積むようにしている。
- ・共感することで、自分の考えをみんなの前でも言うことができるようになった。
- ・話し合いの中で、主張が少ない子がいる。教員がフォローに入り、少しずつ話し合いへ入っていけるようコーディネートしていくようにしている。

3、 今後の課題・まとめ

- ・幼保こから小へ子どもたちが変わっていく姿(変容)について、幼保こ小全体で情報共有を今後も丁寧に行っていきたい。また、コミュニケーション能力育成について今後も情報共有を行って校区として取組みを進めたい。

野畑・北緑丘小学校区

【参加人数】 小学校(8)名 こども園(3)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(4)名 児童発達支援センター()名
小規模保育事業施設()名 事業所内保育事業施設()名

1、 基調とした発表

各園・学校でサブテーマ「生活習慣を身につけ、体力づくりをして育てていくために」に沿って、生活習慣・体力づくりについて取り組んでいることを情報交換した。

2、 話し合った内容

- ・遊び（鬼ごっこ等）を通じて体力づくりをしている園が多い。
- ・指導者が生活習慣を押し付けているのではなく、子どもどうして話合わせ、気づくようにしながら取り組んでいる。

3、 今後の課題・まとめ

コロナ禍の影響か、体力が十分についていない子どもの姿も見られる。今後もそれぞれの園・学校のいろいろな活動を継続して体力づくりができてほしい。

野畑・北緑丘小学校区

〈参加校園所〉豊中みどり幼稚園・のばたけ保育園・のばたけこども園・北緑丘こども園
春日荘聖マリア幼稚園・緑ヶ丘幼稚園・箕面自由学園幼稚園・
のばたけマミー保育園・野畑小学校・北緑丘小学校

サブテーマ「生活習慣を身につけ、体力づくりをして育てていくために」

1、生活習慣について

- ・「のびのびタイム」で毎日30分集中できる環境（箕面自由学園幼稚園）
- ・4年ぶりに水泳を行った。（豊中みどり幼稚園）
- ・制服をただすなどをしている。子どもどうし身だしなみチェックをしている。（緑ヶ丘幼稚園）
- ・手洗いで泡の使い方や0歳児に教えている。（のばたけ保育園）
- ・5歳児では小学校生活に向けて上ぐつをはくようにしている。着替えも座って着替えないようにしている。（北緑丘こども園）
- ・鬼ごっこなどをする中で5歳児としっかりと話し合う場を設けている。（のばたけこども園）
- ・トラブルを自ら解決できるようにしている。（北緑丘小学校）
- ・畑で様々なものをつくっている。外国籍の子がいる中でいろいろな食文化に興味を示していた。（のばたけマミー保育園）

2、体力づくりについて

- ・毎日1時間、外で遊ぶことをしっかりと目標としている。（箕面自由学園幼稚園）
- ・わからないことを自分で解決できるようにしている。（豊中みどり幼稚園）
- ・仲のよい子どもどうしで遊ぶことが多かったが、指導者が遊びを提案してみんなで楽しく遊ぶことができていた。（春日荘聖マリア幼稚園）
- ・プールで動いたり、リレーで話し合いなども入れたりして取り組んでいる。ドッジボール・サッカー大会・なわとびカードをつくっている。（緑ヶ丘幼稚園）
- ・体育あそびの先生に来てもらって体力づくりをしている。（のばたけ保育園）
- ・“最後までやりきろう”というルールを作ってがんばっていた（鬼ごっこの休けい所など）運動会ではキッズソーランを動作の意味を考えながらメリハリをつけるようにした。（北緑丘こども園）
- ・運動会、外遊びの時間が多い。鬼ごっこなどで体力づくりに取り組んでいる。エリプセンスボールを使って子どもの体力づくりをしている。（のばたけこども園）
- ・遊具ビンゴで全ての遊具を使うようにしたり、ボールあてゲームやマット運動（動物歩き）、とび箱3段など。水泳は水慣れが中心。（北緑丘小学校）
- ・コロナのせいもあってか、今までの学年に比べても体力がないし体幹もない。鉄棒でもバランス感覚がない。「動物あるき」を毎時間行った。（野畑小学校）
- ・週3回1日3時間程度体力づくりをしている。YMCAの外部講師を呼んでいる。（のばたけマミー保育園）

東豊中・東豊台・東泉丘小学校区

【参加人数】 小学校(10)名 こども園(5)名 幼稚園(2)名 保育所(園)(2)名 児童発達支援センター(0)名
小規模保育事業施設名(0) 事業所内保育事業施設(0)名 計19名

1、 基調とした発表テーマ

メインテーマ：「『連携』から『接続』へ ～遊びの中の『学び』を捉え、小学校につないでいく」
サブテーマ： ～子ども同士をつなげる～

2、 第2回幼保こ小連絡会 実施内容

日 時 1月23日(月) 15:00~16:30
場 所 豊中市立東豊台小学校 多目的室(本館3階)
内 容 一部(前半)と二部(後半)に分けた形式での交流会

〔一部〕

第1回で決めたサブテーマ ～子ども同士をつなげる～ についての実践(意見)交流会

ねらい等：就学前施設と小学校の共通点に焦点を当てて、グループ毎に協議後、全体交流。就学前施設の年長にかけた願いや取り組みを知り、小学校に引き継ぐことで、子どもたちの育ちへの願い等を共通の視点に立ち、継続的にサポートできる連携を目指す。

内 容①【就学前に気をつけていること】

- ・季節的行事を取り入れる。
- ・リレー・玉入れなどルールのある遊びを多く取り入れたたり、集団での遊びを楽しめるように、子どもたち同士で作戦会議をもったりする。
- ・困っていることを発信する。等

内 容②【小学校で気をつけていること】

- ・遊びを通しながら学ぶ場をつくる。
- ・ちくちくことば・ふわふわことばを知る。
- ・就学前施設での経験を大切に。
- ・困っていることを言うことに加え、どうしたいとも言えるように。
- ・行きしぶりのある子どもは引き継ぎを丁寧に行っている。
- ・就学前に経験している子どもたち同士のつながりが自然とできるような関わり方を大切にしていける。等

まとめ【東豊中小より】

- 就学前の先生方がどのような思いで子どもたちと関わっているかを知ることができた。今日の交流会で得たことを、今後の小学校での子どもたちとの関わり方に生かしていきたい。《抜粋》

〔二部〕

気になる保護者や家庭に関わる引継ぎ会

- ◆小学校グループごとに、就学前施設からの引き継ぎを行った。それぞれの園から、保護者や子どもの様子などを具体的なエピソードをもとに話を聞くことができた。

3、 今後の課題・まとめ

- ◎今年の連絡会は第1回、第2回共に参集型で開催することが出来て良かった。やはり、オンラインではない対面型の話し合いは相手の思いが良く伝わると感じた。今後もテーマに沿った具体的な取り組み等について実りある交流会を続けていきたい。また、今後の会の役割のローテーションを確認できたのも良かった。

東豊中・東豊台・東泉丘小学校区

〈参加校園所〉

- ① 2月21日(火) 東豊中小学校・東豊中こども園・東豊中幼稚園
- ② 2月22日(水) 東泉丘小学校・アトリオみなみおかこども園・あい保育園西泉丘・ゆたかこども園・東豊中こども園・東豊中幼稚園

1、活動内容

- ① 新1年生と遊ぶ会
 - ・体育館で歌を歌いじゃんけん列車をして遊ぶ
 - ・1年生の教室で1年生を体験する
- ② 新入生学校見学会
 - ・1年生教室前廊下での1年生による園児への呼びかけ
 - ・体育館にて自由遊び

2、日時

- ① 2月21日(火)
- ② 2月22日(水)

3、場所

- ① 東豊中小学校
- ② 東泉丘小学校

4、ねらい

来年度入学する新入生の小学校への期待を高める。

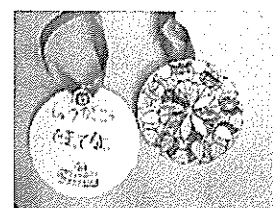
各園の友だちと一緒に遊んで楽しいひと時を過ごし、仲良くなる。

5、活動の展開

- ①
 - ・体育館で「一年生になったら」の歌を一緒に歌う
 - 小学生・園所の子どもがペアになりじゃんけん列車をする
 - ・1年生の教室に入室し、自己紹介をし合う
 - 紙コップけんだまの作り方を小学生に教えてもらい、一緒につくり、遊ぶ



- ②
 - ・体育館で小学校の案内スライドを見る
 - ・廊下から教室内を見せてもらい、小学校の話聞く
 - ・体育館でサーキット(跳び箱、マット等)に取り組む



6、子どもの様子・感想

1年生は、入学当時の自分に園児の姿を重ね合わせながらとても優しく丁寧に小学校生活のことを伝えようとする姿が見られ、各園所の子どもたちも1年生の優しい関わりの中で進学することへの期待や安心感を抱き喜ぶ姿が見られた。

また園の保護者からも、帰宅後の子どもの嬉しそうな姿から交流会をこれからも続けてほしいとの感想をいただいた。コロナ渦で3年ぶりの交流会となったが、実りある時間となり実施できてよかったと感じている。今後も幼保こ小の連携を深めていきながらより良い交流や見学会につなげていきたい。

南丘・新田・新田南・西丘小学校区

令和4年度（2022年度）第2回 幼保こ小連絡会

記録 西丘小学校

日時 令和5年（2023年）1月23日（月）15時45分～

【参加校園所】

小学校（新田・南丘・新田南・西丘）

幼稚園・こども園（白鳩チルドレンセンター南丘・追手門学院幼稚園・北丘聖愛園

- ・アトリオみなみおかこども園・あけぼのドロップス・西丘こども園・アソカ幼稚園
- ・アスク上新田保育園・せんりひじり幼稚園）

1. 自己紹介

2. メインテーマについて交流

「『連携』から『接続』へ ～遊びの中の『学び』を捉え、小学校へつないでいく」

- ・2学期、年長児がお店屋さんごっこをする際、東丘小と北丘小の先生に来てもらった。（せんりひじり）
- ・入学した一年生の様子を前担任が見に行く。（せんりひじり）

→入学後、園所の先生が見学の機会を作り、小学校の様子を見ることで、入学前にしておくことなど連携ができるのではないかな。

- ・たくさんの園所から入学しているので調整は難しい。（南丘小）
- ・入学後に気になる児童がいる場合は小学校に言ってきてほしい。（新田南小）
- ・コロナ禍で困ったことはあったか。（西丘小）
- ・保護者に見てもらっていない。認められる機会が少ない。（北丘聖愛園）

→園所小で連携を進めていくことが必要ではないかな。

3. 学校訪問について

- ・学校訪問を予定している。（せんりひじり）
- ・2月2日に体験入学を予定。（南丘小）
- ・HPで小学校の様子の動画を確認できる。（新田小）
- ・HPで入学説明会のPWを見てもらい学校の様子をお知らせする。コロナのため体験入学は考えていない。（西丘小）
- ・まだ予定は立てていないがやりたいと思っている。（新田南小）
- ・交流会は今後どうなるのか。（アトリオ）
- ・コロナ前は進学する小学校に分かれて見学に行っていたが、今年はどうか。（あけぼの）
- ・受け入れたいがそれぞれの園所との調整が難しい。（新田小）
- ・体験する意義はあると思う。日を決めるなど日程調整が難しい。（新田南小）

4. 来年度についての確認

第1回：司会・記録（西丘小） 第2回：司会（新田南小）・記録（新田小） 新田小の校長先生が調整する

南丘・新田・新田南・西丘小学校区

＜参加校園所＞南丘小学校・新田小学校・新田南小学校・西丘小学校・せんりひじり幼稚園・白鳩チルドレンセンター南丘・追手門学院幼稚園・北丘聖愛園・アトリオみなみおかこども園・あけぼのドロップス・西丘こども園・アソカ幼稚園・アスク上新田保育園

1、 活動内容

『連携』から『接続』へ～遊びの中の『学び』を捉え、小学校へつないでいく」をテーマとして取り組みの交流

2、 日 時 令和5年（2023年）1月23日（月）15：45～16：30

3、 場 所 オンライン

4、 ね ら い 今年度の取り組みを交流し、来年度に繋げる。

5、 活動の展開

- ・2学期年長児のお店屋さん活動を行った。東丘小学校と北丘小学校の先生に見に来てもらって、子どもの様子を伝えることができた。コロナ禍前は、入学した1年生の様子を見に行く年もあった。再度取り組みたい。（せんりひじり幼稚園）
- ・幼稚園や保育園の先生が小学校に来ていただいてどのように生活しているのか、進学後の様子を見てもらうことができた。逆に小学校から幼稚園や保育所へ様子を見に行く機会を作り、連携・接続ができた。（新田小学校）
- ・コロナでなかなか呼ぶことができず、1年生の年間計画の中で位置づけていなかった。来年度行うなら年間計画を見直し、就学前との接続を図りたい。ただ、多くの幼稚園や保育園があるので難しい。（南丘小学校）
- ・小学校と幼稚園・保育園の交流会の必要性を感じる。入学前の個別の引継ぎが必要。（新田南小学校）
- ・人数が多く子どもたち同士が繋がれなかった。2学期の終わりにようやく繋がれるようになった。コロナ禍で、幼稚園や保育園では園児同士の交流が少なかったのか、歌、手遊び、友だちと遊ぶなどにおいて経験不足を感じた。入学するまでの子どもたちの様子を知りたい。（西丘小学校）
- ・コロナ禍で、保護者に見に来てもらうことができず、保護者に認めてもらえる機会が極端に少なかった。園では子どもたち同士で頑張っていて行事を行っている。（北丘聖愛園）

6、 今後の課題、まとめ

- ・来年度は交流ができるよう、園と小学校でお互いを知る機会を設け、園所小で連携を進めていくことが必要。

東丘・北丘小学校区

【参加人数】 小学校(5)名 こども園(3)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(2)名 児童発達支援センター(0)名
小規模保育事業施設(0)名 事業所内保育事業施設(0)名

基調とした発表「架け橋プログラムの実践交流と今後に向けて」
話し合った内容 今後の課題・まとめ

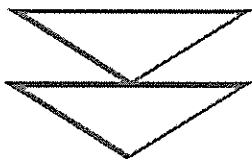
【実践】

- ①5歳児 『おみせやさん プロジェクト』
 - ・園児が主体的に取り組み、対話的に創り上げるプロセス。
- ②5歳児 『小学校を体験しよう』
 - ・小学校で想定される生活を体験。上靴・チャイム・給食当番
- ③1年生 『実行委員』
 - ・お楽しみ会を実行委員中心に進行。
- ④小学校 『もちあじ』を根幹においた集団作り
 - ・もちあじとの出会い、人権参観、

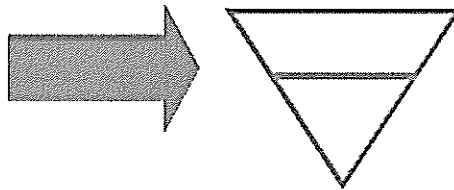
【課題 と今後に向けて】

- 小学1年生のスタートを『0』にしない

ありがちな接続モデル



理想とする接続モデル



- 小学校入学後に伸ばしてほしい力
 - ・自分たちのことを自分たちで決める力
 - ・やりたい、挑戦したいことを子どもたちが自分たちで決める力（自己決定力）
 - ・困っている子を気にかける力、アプローチする力、助け合う力
 - ・自分が困っていることを発信する力
- 保護者同士をつなげる取り組み
 - ・保護者は悩みや不安を相談するつながりを求めている。
- 学校・園の活動、児童・園の様子を積極的に発信し、可視化する
 - ・子どもからの声⇒取り組みや活動に反映⇒変化や成長を発信
 - ・保育者としての関りや思い⇒子どもたちの幸せや育ち、成長につながることを発信
 - ・一人ひとりの多様性に配慮した関わりと多面的な子どもの見方

東丘・北丘小学校区

参加:北丘小学校・東丘小学校・せんりひじり幼稚園

1、活動内容

就学前の5歳児のお店屋さんプロジェクト活動に、小学校の先生を招待する。

2、日時 令和4年 12月 9日(金)

3、場所 せんりひじり幼稚園

4、ねらい 5歳児のプロジェクト活動での育ちと小学校での育ちの連続性を探り、連携を図る

5、活動の展開

5歳児のお店屋さんごっこのプロジェクト活動に小学校の先生を招待する。

・小学校に招待状をもっていく

(ついでに学校を案内してもらう)

・お店にお客さんとして来てもらう

ゆり組 ゆり☆クリニック

ふじ組 ほらーふじないと

れんげ組 まるがめれんげうどん

すみれ組 インドカレー屋さん

ばら組 551ばら

「招待状を持ってきました！
お店屋さんに来て下さい！」

「のどがあかい
ですね。」

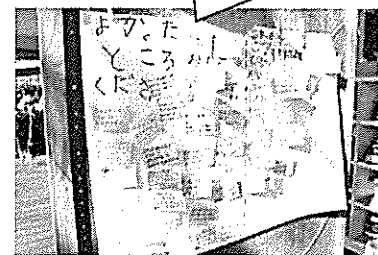
「ちょっと疲れてい
るんですわ」



お家でお菓飲んでくださいね。おだいじに。

ほんかくてきなカレーね

よかったところも書いてくださいまし



「ほんまにたべたくなるわ」

5歳児のお店屋さんプロジェクトは、子どもたち同士が話し合いを重ね、試行錯誤しながら友達と協力してお店を作り上げていきます。そのプロセスで、社会情動的スキルなど小学校に繋がる力の育ちが見られます。実際に活動の様子を小学校の先生方に見て頂きたくて、子どもたちが小学校に、招待状を持っていきました。お忙しい中ご来園いただき、お店屋さんでのやり取りを楽しんでいただきながら子どもの育ちを感じて頂くことができました。お店屋さんプロジェクトの過程で見られる様々な子どもの姿から、三つの資質能力や、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿、非認知能力、社会情動的スキル等の育ちが見られることを説明させていただきました。より段差のない入学に向けて、幼児期に育てたい力と、入学後に育つであろう力をすり合わせ、今後の保育活動に生かしていきたいと感じました。

6、子どもの様子・感想

自分たちが通う小学校の先生が来て下さるということで、張り切って丁寧におもてなしをする姿が見られました。また、自分たちが工夫して作ってきたことを先生方に具体的に説明する姿も見られました。

桜塚・南桜塚小学校区

<参加校園所>あけぼの幼稚園、東邦幼稚園、さくらづか保育園、豊中幼稚園、曾根幼稚園、とうほう保育所、ゆたか保育園、豊中ひだまり保育園、中桜塚ひだまり保育園、HOPPA北桜塚

1、ねらい

「行事を通して、子どもたちの体験をつなぐ。」

桜塚・南桜塚小校区では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、小学校と保育所、幼稚園、こども園との交流の機会を持つことができていません。また、それぞれの園・所・学校においての行事もこれまで通り実施できていません。しかし、今年度少しずつ緩和された状況から、実施困難だった行事等（体験学習も含め）を工夫することにより、コロナ禍希薄になってしまった「つながり」を、より確かなものとしていきたいと考えました。今回は、各園・所・学校においての取組を発表し、交流することにしました。

2、東邦幼稚園の取組

(1) 活動内容

9月にデイキャンプ（1チーム8名「1クラス3等分」でスタンプラリーを実施。）

10月に運動会（1チーム12名「1クラス2等分」でリレーを実施。）

11月に制作展（学年全体、クラス全体で大型制作、季節の制作を実施。）

1月にお店屋さんごっこ（他学年とペアになりお店屋さんごっこを実施。）

行事以外にもフリータイム（自由遊びの時間に園庭、年長保育室など子どもたちが好きな場所で友だちと一緒に遊べるように実施。）

(2) 子どもの様子や感想

コロナ禍の影響を受けて、友だちとの関わりが減り、遊びや活動の中で友だちと相談したり、協力したりする姿が少なく、相手の話をなかなか聞けない（聞き入れられない）、相手への興味や関心が薄い子がいるという日頃の姿を受け、少人数から人数を増やして話し合う機会などを取り入れた。数々の行事や活動を通して、友だちとコミュニケーションを取りながら協力したりすることが増えてきたように感じる。

3、あけぼの幼稚園の取組

(1) 活動内容

・自園では、コロナが流行っている時でも、形を変えながらではあるが通年の行事を行ってきた。今年度に関しては、ノーマスクで保育をしている為、保護者との距離、子ども同士（子どもはもともとマスクをしていない）の距離はコロナ禍前と変わらない。

・卒園生が園に出入りできる、習い事、行事、小学校が振替休日の場合のお兄ちゃんお姉ちゃん先生として、帰ってきている。

(2) 子どもの様子や感想

・子どもとの会話は、ノーマスクにすることで確実に言葉が伝わりやすい。また、行事が例年通り行われることで、保護者との子どもの育ちを共有しやすくなった。

・保育者が卒園生と普通に関わることで、年上の子への怖さ（関わりが少ない子はどうしても感じてしまう）も和らいでいる子もいたように感じる。

・まだまだ交流は出来ると思うし、園内に駄菓子屋や、絵本や本が読めるコーナーがあれば、もっともっと、気軽に園に出入りできるようになり、地域の中で子どもが育っているという実感がもて

るのではと考える。防犯の面では課題はあると思うが、地域の中に居場所が沢山あるようにしたい。

4、南桜塚小学校の取組

(1) 活動内容

それぞれの幼稚園や保育園、こども園から入学し、新しい集団となった1年生に、学習や学校、友だちや他学年と「つながる」取り組みをしてきた。「学校とつながる」取り組みとしては、学校を知るために学校探検を行い、どんな教室があるのか知った。また、担任以外の学校で働く人たちから話を聞き、自分たちのために働いている人がたくさんいることに気づいた。「学習とつながる」では、鉛筆の持ち方や正しい姿勢の指導から始め、図工や生活とも絡めた活動を多く取り入れながら学習することで、無理なく楽しみながら学習に親しんでいけるように取り組んだ。「友だちとつながる」では、学級ごとのグループ活動はもちろん、校外学習や運動会などの行事を通して色々な友だちと関われるよう取り組んだ。また、沖本先生を講師に招き、みんながつながり安心して過ごすために、それぞれの「もちあじ」を大切にすることの良さを教えていただいた。「他学年とつながる」では、コロナ禍で制限はあったものの、6年生とのきょうだい学級遊びや、2年生との学校探検、おもちゃまつりを経験することができた。

(2) 子どもの様子や感想

入学当初は、同じ園だった友だちと関わる子が多かったが、学校に慣れ、学習や行事を通して友だち関係が広がっていった。仲良くなるにつれて、お互いがしっかりと主張できるようになり、けんかになることもあったが、その都度お互いの気持ちを聞き合い、わかりあっていくこともできた。沖本先生の話聞いたことで、誰にだって得意なことや苦手なことがあって当たり前だということに気づき、友だちの良さも認め合いながら過ごせていると感じられることもあった。3学期になってからは、「もうすぐ2年生」ということを意識できる声かけを多くしてきたが、そこで他学年との交流の経験から、次は自分たちが教えてあげる立場だということイメージすることができ、入学体験に向けて張り切ってがんばる姿も見られた。

5、意見交流

・マスクの着用について

あけぼの幼稚園では、2年前から園児・保育者ともにマスクを着用しておらず、保護者も着用していない方が多いとのこと。その他の園・校は基本的にマスクを着用している。

・避難場所の設定について

園の非常時の避難場所が小学校に設定されているため、避難の仕方や保護者の引き取りについての確認をしっかりと共有しておく必要がある。

・要録の書き方、取り扱いについて

要録はどれほど小学校で活用されているか、どのように書いておけば活用してもらえるのかという質問に対し、送付された要録は基本しっかりと読んでいます。しかし、その子の困り感等課題については書きにくいと思うが、表現を工夫して書いてもらえればありがたいという意見があった。いつも細かく丁寧に書いていただいているので、今後もしっかりと活用していきたい。

数年ぶりの対面での開催で、連絡の行き違いや進行の不手際等があったが、やはり対面で話し合うことの重要性を感じたため、今後も対面でこの地域の子どもたちの実態などについて話し合っていきたい。

桜塚・南桜塚小学校区

〈参加校園所〉

- ・東邦幼稚園 ・曾根幼稚園 ・さくらづか保育園 ・豊中幼稚園
- ・あけぼの幼稚園 ・ゆたか保育園 ・神童幼稚園 ・こもれびのもり

1、活動内容

「入学体験」・園児を小学校に招いて、小学校生活の体験をしてもらう。

2、日 時

令和5年(2023年)

2月7日(火) 2時間目 東邦幼稚園、曾根幼稚園、神童幼稚園

3時間目 さくらづか保育園、豊中幼稚園

2月16日(木) 2時間目 あけぼの幼稚園、ゆたか保育園、こもれびのもり

3、場 所

南桜塚小学校 1年生各教室

4、ねらい

1年生と園児が交流し、楽しいひと時を過ごす。

1年生は、お互いに交流する中で、年少者へのいたわりの心をもつ。

園児は、1年生とともに授業などに参加し、小学校入学への期待をもつ。

5、活動の展開

1. 初めの挨拶

4. ランドセル体験、お道具箱の紹介

2. 自己紹介

5. くるくるコプター作り

3. ひらがな「あ」の学習体験

6. 終わりの挨拶

6、子どもの様子・感想

初めはお互い緊張しているようだったが、自己紹介でペアの人の名前を覚えて、1年生が1つ1つ丁寧に説明したことを幼稚園の子どもたちはしっかり聞いている様子だった。

1年生は楽しんでもらおうと、一生懸命話したり教えたりして頑張っていた。「来てくれたのが嬉しかった。」や「また来てほしい。」などと話していた。

幼稚園の子どもたちは、元気いっぱい手を挙げたり、声を出したりしていた。ランドセルを背負ってみて「思ったより軽い。」や「大きい。」などと感想を言っていた。



熊野田・泉丘小学校区

【参加人数】小学校(19)名 こども園(4)名 幼稚園(9)名 保育所(園)(7)名

児童発達支援センター(0)名 小規模保育事業施設(0)名 事業所内保育事業施設(0)名

1、 基調とした発表

各園所より、この1年で育ててきた力や課題などを発表・交流

【育ててきた力】

○生活面での自立(自分のことが自分でできる)

自分の持ち物の準備をすることや食事の際、いい姿勢で食べるなど、生活習慣が身につくようにしてきた。

○主体性をもつ

毎日の遊び、行事(運動会や発表会)の際に、何をしたいか、どのようにしたいかを子どもたち同士で話し合っ決めてたり、自分の意見を伝えたりする経験を積んできた。その結果、達成感を味わったり、自信をもったりする経験となった。

○小学校入学に向けて

見通しをもって行動できるように、スケジュールを確認する時間を設けたり、時計を意識できる声かけをしてきたりした。自分の名前の読み書きができるよう、習字の時間を作ったり、鍵盤ハーモニカに触れたりすることを取り組んだ園・所もあった。

【課題】

話をきくこと、時間を意識することがあげられた。また、コロナ禍で育った子どもたちということもあり、運動面(体の動かし方がわからない、よく転ぶなど)が心配という声もあった。

【小学校での取り組み】

園・所での経験をつないでいけるよう、まずは、小学校生活に慣れることを目標に過ごしてきた。授業や行事の中で、子どもたち同士のかかわりを大切に、自己肯定感を高められるよう取り組んできた。時間を守ることや友だちとのトラブルが多いなど課題もあるが、一つずつ解決し、学ぶ機会となるようにしている。

2、 話し合った内容

【連携を深めるためのアイデア】

・校庭に遊びに来る、小学校を散歩のコースに入れるなど、のびのびと小学校で過ごす経験を積んでおくことで、入学に向けての安心感につながるのではないかな。

・小学校と園・所が近くにあるということを意識していきたい。(避難経路の整備など)

・園のクラブ活動で運動場を使用するなど、小学校へ行く機会を増やしていきたい。

3、 今後の課題・まとめ

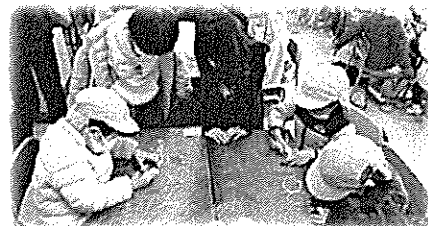
現在のコロナ禍がどのように収束していくのかわからないが、子どもたちのかかわりを優先に考え、柔軟に対応していく必要がある。

熊野田・泉丘小学校区

＜参加校園所＞熊野田小学校・泉丘小学校・熊野田幼稚園・ゆたかこども園・旭丘こども園・東豊中幼稚園・くまのだ保育園・おひさま保育園・旭丘かいせい保育園・あい保育園西泉丘

1、活動内容

『小学校体験入学～楽しく交流しよう～』



2、日時

令和5年（2023年）2月27日（月）9:45～10:45

3、場所

熊野田小学校および泉丘小学校

4、ねらい

新1年生になる、幼稚園、こども園、保育園の園児たちを小学校に招き、小学校の雰囲気味わうとともに1年生とともに活動し楽しく過ごすことで小学校進学に対し、不安感を和らげ期待を高める。

5、活動の展開

【泉丘小での例】

9:30 集合（体育館へ）

9:45 顔合わせ（体育館）⇒3グループに分かれる。

1年生と園児が手をつないで、1年の各教室に移動

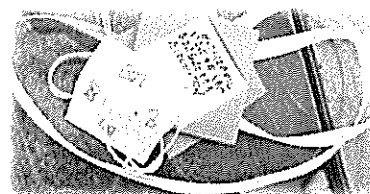
10:00 活動「ぶんぶんごまをつくろう。」

1年生が事前に作成していた「ぶんぶんごま」に園児が色や模様を付ける。
児童はお手伝いをする。

10:30 「学校の歌（校歌紹介）」

その後、メダル（朝顔の種付き）プレゼント

10:40 終わりの言葉 ⇒ 解散



6、子どもの様子・感想

晴天の下、先生たちに引率されて園児たちが手をつないで小学校にやってきました。門のところで出迎えると「おはようございます！」ととても元気な挨拶が返ってきました。

園児たちは最初、大きな運動場や体育館で少し緊張も見られましたが、1年生との交流でほぐれていき、お話をしてくれたり笑顔を見せてくれたりしてあっという間に時間が過ぎてしまいました。

1年生にとっても、この春に上級生になる自覚が芽生えたのではないかと思います。園児たちが帰った後も担任に園児との関わりをたくさんお話してくれました。

緑地小学校・中豊島小学校区

◇日時

令和5年（2023年）1月24日（火）15時～

◇場所

緑地小学校多目的室

◇参加校園所

緑地小学校・中豊島小学校・豊中ほづみ保育園・豊中あけぼのこども園・服部みどり幼稚園
てらうちこども園・服部こども園・服部幼稚園・曾根幼稚園・あけぼのぶんぶん
ゆたか保育園・ひかり保育園・ほづみ絵本の森保育園

◇内容

- ・各校園所からの実践報告等は特に必要ではないと判断し、行わなかった。
- ・各園所から、次年度新入学予定の子どもについて、両小学校の1年生および支援担任への情報の提供を行った。
- ・子どもについての情報のみではなく、保護者の情報も得ることができ、大変有意義であった。
- ・次年度もこの形態を維持していきたいと考えている。

豊島・豊島西小学校区

【参加人数】 小学校(5)名 こども園(5)名 幼稚園(1)名 保育所(園)(3)名

児童発達支援センター(1)名

小規模保育事業施設()名 事業所内保育事業施設()名

【参加校・園】 豊島小学校・豊島西小学校・ほづみあそびまなびの森・てしま保育園

てしまこども園・こうづしま幼稚園・夢の鳥保育園・にっこりことぶき園

児童発達支援センター

1、 基調とした発表

→ 本校区では以前から発表形式には取り組んでいません。

2、 話し合った内容

○小学校での様子

- ・生活力はあるが学習についていけない児童が多い。(特に国語)
→ その場合、放課後に居残りをして学習している。
- ・宿題をやってこない児童もいる。
- ・だんだん小学生らしくなってきた。

○園での様子

- ・基礎的なことができるように声かけをしている。
- ・年長になると、小学生に向けてぐんと成長する。
- ・家庭との連絡がとりにくい家庭もある。

3、 今後の課題・まとめ

- ・年2回の交流会で、児童について交流するが、足りない。
- ・個人の児童の交流をもっと密にしていくべきなのではないか。
→ 学校、園とお互に見学に行ったり、連絡をとりあったりしてはどうか。
- ・小学校の授業見学を実施(再開)していく方向で進める。

豊島・豊島西小学校区

<参加校園所>

- 1、 活動内容
創作展の世界を考える

- 2、 日 時
2022年1月16日

- 3、 場 所
ばらぐみ保育室



- 4、 ね ら い
グループの中で自分の思いを伝えながら、
友達とイメージを共有しながら作ることを楽しむ

- 5、 活動の展開
これまでの活動から、小学校のグループに分かれて折り紙を用いて『世界』をキーワードに思い思いの世界を表現することが決まった。

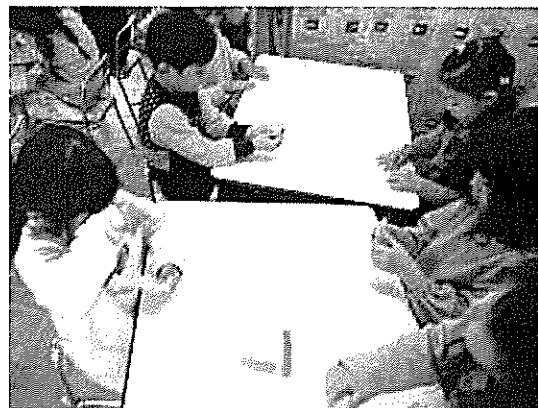
- 各グループに分かれ、どんな『世界』を表現したいか話し合う
・想像しやすいように例を出しながら進める。

- 各グループで決まった『世界』を前に来て発表する
・ホワイトボードを各グループに渡し、絵を描いたうえで具体的なイメージを全体で共有する。

- 各グループでどんなものを作りたいか、どんな材料があると作れるのかを話し合う。

- 折り紙を用いて、世界観に適したものを作っていく。

- 活動終了時に出来ている過程を紹介しあう。



6、 子どもの様子・感想

年長の当初からグループワークや話し合う時間を設けてきたことで、自分の意見を伝えるだけでなく友達の思いを聞きながら進める姿が見られた。また、自分の意見を伝えにくい友達には「何か作りたいのある？」と問いかける姿も見られ、グループとして考え進めていくことが出来ていた。話し合いの中では、「折り紙の世界なら、折り紙で作れば何でもできるやん！」と折り紙ならではの自由な発想で楽しんでいた。自由なアイデアを出し合うことで、思いのすれ違いから口論になることもあったが、面白いアイデア同士を合わせたり、友達のアイデアを認めたりする様子も見られ、話し合いの中で様々な姿が見られた。

クラスの友達にグループの世界を発表する際には、グループの中で楽しみながら考えていた内容だったため元気よく笑顔で発表していた。多くの人の前で発表することが苦手な子もいたが、グループ内で話し合っていたときに作りたい世界観を絵を描く形で思いを認められ、喜ぶ表情が見られた。また、周りのグループの発表の影響を受け、発表終了後には他のグループの絵を見ながら、グループで再度話し合う姿も見られ、世界を創造することを楽しみながら積極的に活動に取り組んでいた。

折り紙での製作を始めると折り紙を得意な子や好きな子を中心にどんなものを作るのか話し合い、折り紙の本を用いて調べながら作っていた。しかし、グループ内での会話が減ってしまい、方向性がバラバラになるグループもあったため、作りながらも絵や言葉で共有していけるような関わりを増やしていく必要があると感じた。作りながら他のグループへの意識も強く、他のグループを見回りながらアイデアや作っている作品を認める姿があった。

過程発表では大きく進んでいるグループは特になかったため、クラスの中で作りたいものを作り、自分たちの折り紙を見てもらうことで自信をもちながら発表していた。

昨年度もクラスの中で話し合いながら自由に作ることを楽しんでしたが、年長になり自分だけでなく周りの友達やグループの友達を意識しながら話し合ったり作ったりしており、成長した姿が見られた。折り紙は得意な子と苦手な子とがいるため、作りたいものや作りたい難易度も異なる。その為、個別に関わりながらグループの中での活動の楽しさと個別で作り表現することの楽しさが感じられるように関わっていきたいと思った。また、得意な子が教えることのできるような環境も作っていききたい。

原田・豊島北小学校区

【参加人数】 小学校(7)名 こども園(5)名 幼稚園(0)名 保育所(園)(10)名 児童発達支援センター(0)名
小規模保育事業施設(0)名 事業所内保育事業施設(0)名

1、 基調とした発表

コロナ前の連絡会で、1校(園・所)だけが発表するのではなく、全体共通テーマ『連携』から『接続』へ～遊びの中の『学び』を捉え、小学校へつないでいく』に基づき、各校・園・所のとりくみについて実践報告をすることにしたので、今年度も同様に

- ・園・所からは、小学校入学に向けて、どんなことにポイントを置いて指導したか
- ・小学校からは、園・所のとりくみを受けて、受け入れた子どもたちをどう育てているか

について、互いに報告・交流した。

2、 話し合った内容

園・所から コロナ対策はとりつつも、今年度は「縦割り活動」「遠足」「お泊り保育」などが実施できた。

異年齢との交流・園外での様々な活動・家を離れて過ごすなどの経験を通じて、子どもたちの生活経験をより豊かにすることができた。様々な行事を通して、友だちと協力することの大切さや集団行動のルールを学ばせることができた。年長の子どもたちの中には、もめ事を話し合いで解決しようとする姿勢も少しずつ芽生えてきた。

小学校から コロナ禍の中、低学年では一人遊びや並行遊びが増えていたので、グループや学級集団など大人数で遊ぶ機会を意識して増やしてきた。子どもたちは、カードゲームやボールゲームなどを通して、集団で遊ぶ楽しさを感じ始めてきている。

今年度は、2年間実施できなかったプール指導ができた。そのほかにも、就学前・入学直後に経験させられていなかったことを取り戻している。各園・所で取り組んでこられたことを小学校でさらに発展させていきたい。

3、 今後の課題・まとめ

園・所と小学校が同じ視点を持つことで、切れ目なく指導ができること、園・所で積み上げた経験が小学校で生かせること、園・所での取り組みをさらに発展させた取り組みが小学校で出来ることなどスムーズな接続が出来つつあることが確認できた。

2年間、参集での連絡会が持てなかったが、この連絡会で顔を合わせることで、学校・園・所とのつながりがより深まることを改めて感じた。多忙な中、都合を合わせて参集するのは大変であるが、予定が組まれているので、たとえ1人でも出席して情報を広げてもらいたい。

北条・寺内小学校区

【参加人数】小学校(10)名 こども園(5)名 幼稚園(5)名 保育所(園)()名
児童発達支援センター()名 小規模保育事業施設()名 事業所内保育事業施設()名

1、 基調とした発表

- 校区のサブテーマである「入学に向けた、送り出し、受け入れ準備」に基づいて、各校園の『連携』から『接続』を意識した取組みを発表・交流しました。
 - 小学校からは、交流会の取組みと入学式アトラクションの予定の説明がありました。
 - 各こども園、幼稚園からは小学校入学に向けた取組みの具体が紹介されました。
 - ▶ 生活発表会で必要なものを子どもたちだけで相談して作って遊ぶ経験
 - ▶ 小学校に行っかけてこの見本を見せてもらった
 - ▶ 現在は裸足生活だが、上靴生活に慣れるように準備していく
 - ▶ 小学校からマリーゴールドの種を貰って育てている
 - ▶ 言葉で伝えることや、椅子の座り方、鉛筆の持ち方等も取り入れている
- 等

2、 話し合った内容

- 2/14 の同日に両小学校で行う幼保こ小の交流会の内容について
- 2/14 の参加人数や感染状況等、未定要素はあるが子どもたちは楽しみにしている
- 入学式でのアトラクションは、ビデオメッセージの方向で検討

3、 今後の課題・まとめ

- 2/14 の交流会に向けて

北条・寺内小学校区 幼保こ小交流の実践事例

参加校園所 北条小学校 寺内小学校 てらうちこども園 服部みどり幼稚園 小曽根こども園
小曽根幼稚園

<北条小学校>

北条小学校では、毎年3学期に、次年度入学予定の児童が在籍する幼稚園・こども園との交流を行っている。内容は、①幼稚園・こども園を本校に招いて行う交流会②入学式での歓迎メッセージ の2つである。①の交流会では、メダルのプレゼント・一緒にできる簡単なゲーム・教室でのランドセル体験を行う。メダル作成にあたっては、昨年度自分たちが入学前にどんな気持ちだったのかを思い出し、新一年生が安心して楽しく入学できるようなメッセージを考えてメダルに書き込む。ゲームやランドセル体験も、「安心・楽しい」を目標に取り組む。②の入学式での歓迎メッセージは、入学する新一年生がこれから始まる学校生活を楽しみにすることができるような内容を子どもたちが考え、録音したメッセージを子ども達が描いたイラストと共に動画にし、入学式当日に新一年生に見てもらうものである。小学校での1日を楽しく紹介することで、学習や休み時間、給食などをイメージしながら聞くことができるようにする。1年生にとっても自分たちがこの1年で大きく成長したことを実感できる貴重な取り組みとなっている。

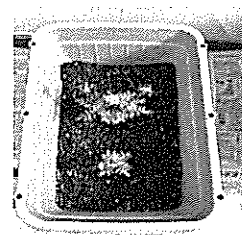
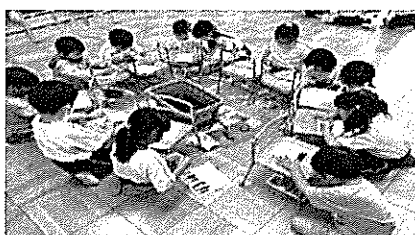
<寺内こども園>

てらうちこども園の年長児は、運動会でリレーをしました。その取り組みの中で「どうしたらしっかり走れるのか」という子ども同士の話になり、見本になる走る姿を見たいと、小学生の様子を見せてもらう機会をつくることにしました。小学校を訪問して、校庭で1年生がかけっこで走る姿を見学。1年生にはてらうちこども園の卒園児も多く、年長児も一緒に遊んだり知っている子を見つけて喜んだりする姿がありました。最後まで走りきる姿を見て自分たちもがんばろうとなっていました。また運動会後は、年長児が運動会で取り組んだパラバルーンを、小学生に見て欲しいという気持ちも芽生えていました。

年明けには、自分たちで制作した凧をあげるのに、校庭を利用しました。当日は年長・年中児が校庭で凧あげをして、広い校庭をいっぱい走り凧あげを楽しんでいた子ども達。凧あげを終えこども園に戻る時、ちょうど行間休みで校庭に出てきた高学年の生徒さんと遭遇し、声をかけてもらい交流の時間になりました。

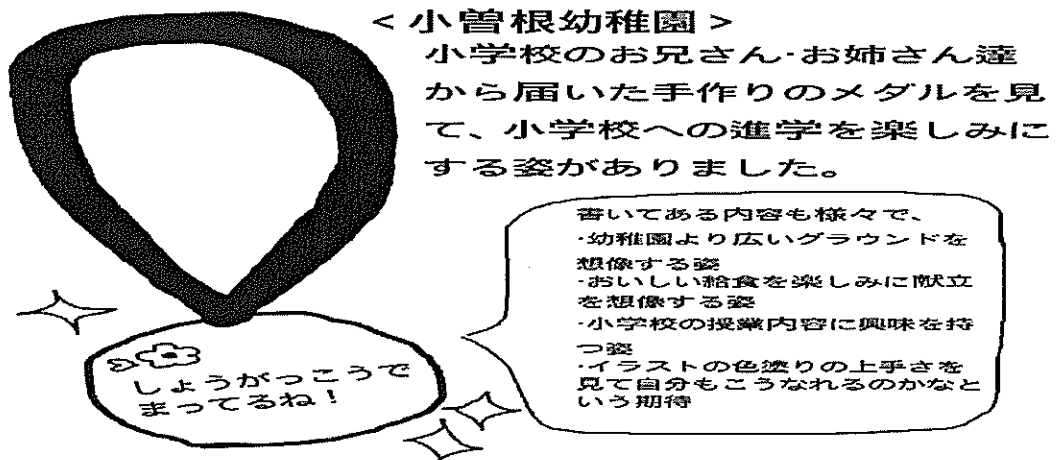
<服部みどり幼稚園>

小学校との直接交流はできなかったが、2月に北条小学校からメダルのプレゼントが届きました。メダルには1年生からのメッセージで「きゅうしょく おいしいよ」「やすみじかんはあそべるよ」「がっこうたのしいよ」など、ひらがなで書いてあり、子どもたちは一生懸命文字を読んで 想像を膨らませていました。プレゼントをもらったお礼に、桜の花びらにありがとうのメッセージや絵を書いて大きな桜の木を作りました。直接ではないけれどメッセージ交換ができてうれしそうにしている 小学校に親しみを持つ機会になりました。また、3月に小曽根小学校からはマリーゴールドの種とメッセージを頂きました。春に次の年長組が種を蒔き、育てました。マリーゴールドの種は、水やり・観察記録等の活動を通して美しい花を咲かせることができました。幼小の小さな繋がりが花咲く暖かい交流になりました。



<小曾根こども園> 小学校交流・小学校に向けて

- ・こども園から小学校へ行くにあたってのギャップや不安をできるだけ減らせるよう取り組んでいる。
- ・絵本や紙芝居を活用し、小学校の様子をイメージしやすいように、また“楽しみだな”“おもしろそう”と感じられるように取り組んでいる。
- ・身の回りのことは自分でできるように身支度や当番活動など取り組んでおり、“自分でできた”という経験を積み重ねて自信につなげている。
- ・クラス懇談会では、小学校に向けての不安な思いや聞きたいことを話してもらい、保護者同士つながれる機会を作っている。



<あい保育園寺内> 寺内小学校体験入学会について

- ・当日はインフルエンザがクラス内で流行していて、4名のみの参加になってしまった。他園の年長児の人数の多さや小学一年生のお兄さんお姉さんに少し圧倒されながらも、体育館で見せてもらった大縄跳びには目を輝かせていた。昨年の卒園児に手を振るなど微笑ましい姿も見られた。
- ・各教室に移動してからは、グループ毎に絵本の読み聞かせをしてもらったり、机や教室の説明をしてもらって緊張が解けたのか、「給食は何かおいしい?」「何のお勉強がすき?」等と質問をする子もいた。メダルを受け取ると嬉しそうにお礼を言って、帰り道では「楽しかった!」「トイレ大きかった!」と感想を口々にして、入学に対する期待も高まっていったのではないかなと思う。
- ・後日、欠席して参加できなかった友だちに色々説明して教えてあげる姿も見られた。

<寺内小学校>

今年度は、数年ぶりに対面での年長さんとの交流会を実施することができた。『新しい1年生を迎える会』として、第一部は、体育館にて学校の様子を紹介し、1年生が体育で取り組んでいた長縄跳びを見せた。第二部は、各教室にて小学生体験を実施した。あいさつ・座り方の練習・読み聞かせをし、最後に手作りのメダルをプレゼントした。また、入学式の歓迎の催しとして、『学校紹介のビデオ』作りを行った。『新しい1年生を迎える会』・『学校紹介のビデオ』ともに、新しい1年生が入学が楽しみになり、不安が少しでも減るようにと、企画・準備も自分たちで行う中で、2年生になっていく成長を感じていた。

庄内・野田・島田小学校区

【参加人数】小学校(8)名 こども園(6)名 幼稚園(7)名 保育所(園)(2)名 児童発達支援センター()名
小規模保育事業施設()名 事業所内保育事業施設()名

1、 基調とした発表 ~with コロナでできること・遊びの中で学んでいること~について

《幼保こ》・3年ぶりに『運動会』を配信で保護者にもてもらうことができた。

- ・組体操など自分たちで考えていくことを大事にしてきた。意見のぶつかり合いを通して譲り合ったり、折り合いをつけられるようになる。
- ・運動性、積み重ねを大事にしてきた。1年を通じ、同じ場所に行くことで自然物の変化に気付いていくことで感受性を育てていく。
- ・共同性、言葉の伝え合いを大事にしてきた。どうやってするか話し合う。話し合いをしていくことでいろんな意見ややり方があることに気付く。意見の取り入れ方を学んでいる。
- ・運動会で使う縄を自分たちで編む。もう一回したいということを取り入れていく。周りを見て自分の行動を決めていく力も必要と感じ育てている。

《小学校》・学力の差は激しいが運動会のダンスなど自分たちで練習している。

- ・掃除もさぼる子もいない。話し合いも自分の意見を通そうとする子もいなくてスムーズに生活している。
- ・1学期にオンライン参観でありのままの姿を見てもらう。話を聞いていないなど不安に思う声もあったが、主体的、対話的な人とのつながりを大事にしていく。1年と6年が兄弟クラスなので関わってもらうことができた。
- ・色んな子どもたちがいる。昔の遊びを取り入れる。自分でやってみて出来た事は教えてあげることができる。幼保こども園で話し合いを大切にしていることを知りおどろいた。接続、つながりを意識して声をかけてくれたんだ…と思った。折り合いをつけることが苦手な子が、じゃんけんで決めようとしたときに話し合いを提案。今までの経験がその姿につながっていると感じた。

2、 話し合った内容

* 就学前の子どもたちの話し合いの持ち方について

3歳児クラスではイラストを使ってお互いにわかりやすく伝えるようにしている。5歳児になると、ホワイトボードに意見を書いたりして話し合っている。意見を出す、聞いてもらって共感していくことを大事にしている。受けてもらえる安心感を持つことで“言える気持ち”を大事にしている。

3、 今後の課題・まとめ

* 新1年生の引き継ぎについて

12月末に希望を聞いているので予定が決まったら当番校から引き継ぎの連絡があります。人数の少ないところは電話でのやり取りとなります。 保護者説明会 1月31日 10:00~

* 交流については、小学校に来て授業を見てもらうことがコロナでできなかった。子ども同士の交流は難しい。さくら学園のビデオを在校生向けに作ったものを編集して配ることを予定している。子どもたちにイメージを持ってほしい。

* さくら学園は最終段階の引き渡し直前で、これからの話し合いを進めている。コミュニティースクールを視野に入れて学校づくりをしていく。今後は、小、中連携が進められる。より密な関係性が持てないか？来年はさくら学園に来てもらって交流をしていくことを考えている。来年の今頃は招待できると思う。中学生も保育実習という形で交流をどこかのタイミングでしていきたい。この校区だからできるという取り組みを考えていきその機会をどんどん持っていきたいと思う。

庄内・野田・島田小学校区

〈参加校園所〉 ビデオ視聴【庄内こどもの杜幼稚園・くりのみ幼稚園・野田こども園
島田こども園・こうづしま幼稚園・くりのみ保育園・わかば保育園
他（庄内さくら学園への入学が予定されている園にも送付）】

1、 活動内容

令和4年度、三小学校（庄内小学校・野田小学校・島田小学校）および庄内さくら学園中学校が閉校し、来年度「庄内さくら学園」として開校する。新型コロナウイルス流行以前は、当該小学校ごとに園児を招待し学校紹介や1年生との交流を行っていた。今年度は、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染状況や各小中学校が閉校するという状況を踏まえ、各校での交流は見送った。そのかわりに実際に入学する「庄内さくら学園」の紹介ビデオを作成。各園にてビデオ視聴してもらう形をとった。

2、 日 時

令和5（2023）年3月9日（木）～

*メールにて送信（Youtubeによる限定公開）

3、 場 所

各園にて実施

4、 ね ら い

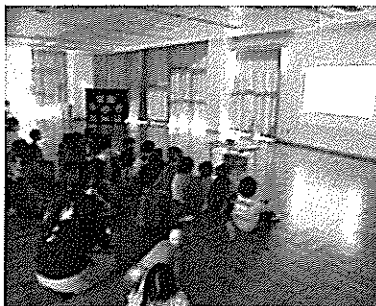
令和5年3月時点で、園児が「庄内さくら学園」内に入ることができないため、「庄内さくら学園」の紹介ビデオを通して、園児の入学への期待感を高める。

5、 活動の展開

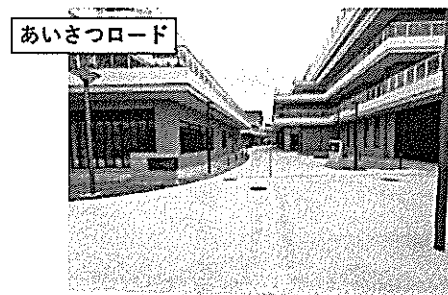
各園にて、「庄内さくら学園」の紹介ビデオを視聴してもらう形をとった。

6、 子どもの様子・感想

園によっては、視聴後、アンコールがおきるなど、園児の期待感を感じる場面が見られた。



ビデオ視聴している様子



ビデオの1コマ

庄内西・庄内南・千成小学校区

【参加人数】小学校(6)名 こども園(7)名 幼稚園(4)名 保育所(園)()名 児童発達支援センター()名
小規模保育事業施設()名 事業所内保育事業施設()名

1、 基調とした発表 「コロナ禍における本年度の下半期の取組みについて」

・各園所ともにコロナ前の様子に比べて、8割から9割程度まで行事が再開してきた。
ある園では運動会や生活発表会の人数を制限するため、乳児と幼児に分けて開催した。

・コロナ禍において子どもたちの人間関係形成には大きな影響が出ていると感じる場面を面にするが増えた。認められたい思いと自信のない姿が混在している子どもたちが数多く存在するように感じる。自分の主張が上手く伝えられない子どもの増加も考えられる。そのような中、行事を縦割りにして上の学年の子が下の学年の子を労わる姿を見ることがあった。このような状況でも子どもたちの心は育つと確信し、得意な子どもが苦手な子どもに教えることで子どもたちの持つ自己有用感や自己肯定感を育てている、という発表があった。

2、 話し合った内容 「登園・登校渋りの子どもたちへの対応について」

各小学校において、登校渋りの子どもの増加は悩ましい問題である。それらに対して幼稚園・子ども園での現状はどうなのか？またそれらに対してどのような対策をとっているのか？について話し合った。まずは小学校の現状から。

小学校では、絶えずアセスメントを行い、全教職員でこの子たちに対応している。また、児童を信じてやることで「安心の土台」を形成している。

これらについて各園所の取組みを聞かせていただき、結論として、子どもたちをどのように育てようか？全職員で共有して連携を図り、みんなでこうしてみようとか、ああしてみようとか話し、その子その子に対してどの位置で対応していくのかをみんなで考え続けること、長いスパンで少しずつ生活リズムを整えるように工夫していくことが必要だという結論に至った。

3、 今後の課題・まとめ

各園所と小学校の間での児童への取組みについての今よりも実用的な、引継ぎの必要性を感じた。ただ話しても児童の顔が見えないので、具体的に児童の行動を見ながら引き継ぐことができるような取組みを考えていくことが求められるのではないかと感じた。例えば一日児童の様子と一緒に確認できるような取組み等、考えることが必要ではないかと感じた。

庄内南・庄内西・千成小学校区

〈参加校園所〉 栄町こども園

- 1、 活動内容 千成小学校運動場で遊ぶ、その後多目的教室で本校一年生の児童より小学校生活についての学校紹介を聞く。
- 2、 日 時 2023年3月9日（木） 午前9：30～10：30
- 3、 場 所 千成小学校（運動場と多目的教室）
- 4、 ね ら い 小学校入学前の園児さんたちに小学校の雰囲気を経験することで少し早い一年生気分を味わってもらい、新入学へのモチベーションアップにつなげることをねらいとして開催しました。
また、本校の児童にとってはこの一年間学んできたことを発表することで上級生としての喜びを感じることに繋がりたいと考えました。

5、 活動の展開

時間	内容	備考	育てたいねらい
9:30	校長・教頭とあいさつ その後 園児たちが自由に遊ぶ。	運動場 築山付近	・あいさつができる ・友人たちと話をしながら考えて遊ぶことができる
9:50	・集合 ・四階多目的教室へ移動 その際、各学年の授業風景を見ていく。	運動場 下足箱 校舎内	・指示を聞いて団体行動ができる。 ・校舎内を見て小学校の授業がどういうものかを知る。
10:10	・4階多目的教室にて本校一年生による学校紹介。		・本校の児童にとってはこの一年間自分たちが学んできたことを手本として示すことができる。 ・あいさつができる。 ・園児たちにとっては小学校の様子が分かり、これからの学校生活に期待と希望を持つ。

6、 子どもの様子・感想

園児たちはとても人懐っこく、初対面の私にもどんどん積極的に絡んでくるなど、天性の明るさと社交性に富んでいました。

ただ、子どもたちはそれぞれに異なる生育環境を持ち、それにより行動に特徴が出ている園児もいるとの話も聞き、後日改めて園での様子などを見に行かせていただけるようお約束ができ、入学に向けて子どもたちにとってよりストレスのない環境づくりに努めなければならないと感じました。

コロナ禍においてこの三年間、ほとんど交流ができていなかったことを考えると、今回は大きな前進と捉えられると考えています。

しかしながら、本校の準備が遅かったため、当初予定していた多くの園所との交流は園所さん側の行事と重なるなど実現しなかったことは大いに反省しています。

次年度以降はさらに活発に活動ができるものとして考え、十分な時間的余裕を持って計画したいと考えています。

小曾根・高川・豊南小学校区

<参加校園所>小曾根小学校・高川小学校・豊南小学校・小曾根幼稚園・大阪音楽大学付属音楽幼稚園・
高川こども園・豊南西こども園・豊南子ども園

1、 活動内容

1年生と幼稚園・保育園・こども園・保育所、各所の子どもたちを各小学校に招いての交流。

2、 日 時

2月2日(木) 10時～11時頃 『ようこそ!ほうなん小学校』(豊南小学校)

2月9日(木) 10時30分～11時30分頃 『ハッピーワールド』(高川小学校)

2月21日(火) 9時30分～10時30分頃 (小曾根小学校)

3、 場 所

各小学校 体育館及び教室

4、 ね ら い

- ・小学校の様子を知り、入学への期待感・安心感を高める。
- ・上級生として進級する喜びと自覚を持ち、思いやりの心を育む。
- ・幼稚園・保育所・保育園・こども園の子どもたちに小学校の事を知ってもらい、作ったおもちゃでいっしょにあそぶ。

5、 活動の展開

【小曾根小学校】

- 受付：来校された園児さんを体育館でお迎えし、5人程度の班に分かれて並ぶ。
- 歓迎セレモニー 1年生によるあいさつ・園児さんの班を担当する1年生との対面
- 教室へ移動 1年生による学校生活の紹介(お道具箱、ランドセルの紹介)
1年生が園児さんに折り紙を教え一緒に作って遊ぶ
1年生から園児さんにプレゼントを渡す
- 体育館へ移動 1年生から歌のプレゼント
お別れのあいさつ
園児さん退場

【高川小学校】

- ①小学校ってどんなところ?
- ②うた・ダンス披露『つばめ』
- ③おみやげ『おりがみのプレゼント』
- ④校内見学

【豊南小学校】

- ①体育館で、子どもたちがそろったらしかいがはじめのことばをいう。
- ②おむかえのことばをいう。校歌を歌う。
- ③しかいのひがおもちゃあそびのルールをいう。(まつぼっくりけんだま、さかなつり、かみひこうき、まつぼっくりまとあて、こまあそび、かみでっぼう)
- ④先生がお話をする。

⑤しかいのひがおわりのことばをいう。

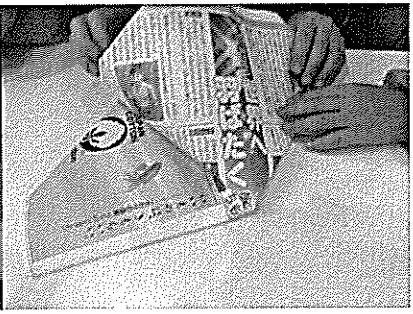
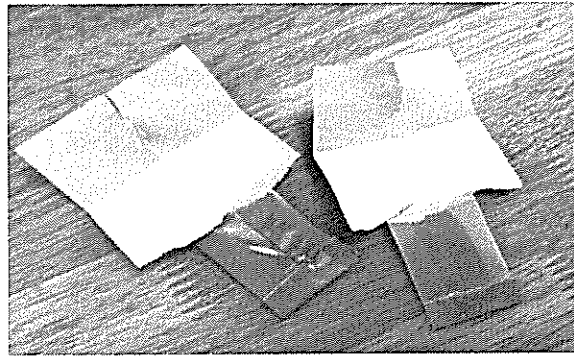
6 子どもの感想と様子

・小学校の体育館に入場してくる園児さんたちは、緊張している様子でした。

1年前の春、入学してきた1年生が園の子どもたちを楽しませよう、教えてあげようとする様子は、とても優しい雰囲気です、頼もしく感じました。一緒に活動することで、小学生にとっても、園の子どもたちにとっても有意義な時間を過ごすことができたと思います。

・自分たちの手作りおもちゃの遊び方を教えてあげたり、各遊びの場所に案内したりと、1年生の1年間の成長を感じることができました。

・子ども園や保育所、幼稚園の子どもたちが楽しめるように、1年生が一生懸命に遊びを説明し寄り添っている姿がみられ、園の子どもたちもそれにこたえてくれていました。



令和5年6月

芽ばえ 第49号

編集・豊中市幼保こ小連絡協議会
